

太陽で
ある

今からおよそ
46億年前……
ひとつの恒星が
輝き出した



ガス円盤の中では
あちこちで
微惑星が
できはじめる

廿二日 隕石于桑都五。

是日 朕後 自東南 有聲如雷 望之如白雲 搖曳
はち おう じ いん せき

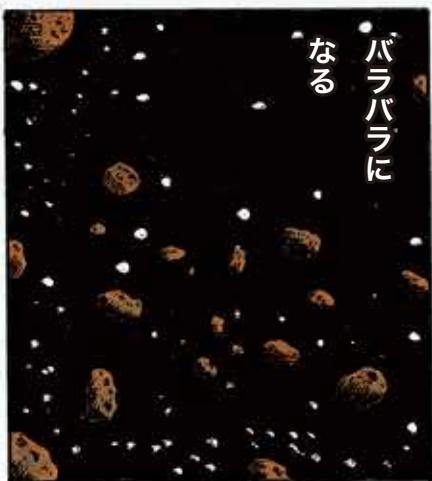
ハ王子隕石

郷。於是 某處之里 正 某處之里 於
官且 獻納其石

ものがたり

按 魯僖公十六年春 正月 戊申 朔 隕石于
日 隕星也 今茲 桑都 隕石 者 其謂 未考之

そうとにつぎ しお のてきさい ごらくじぞう
桑都日記(塩野適齋)極楽寺蔵



バラバラに
なる



微惑星同士が
衝突し……



微惑星は合体して
大きくなる

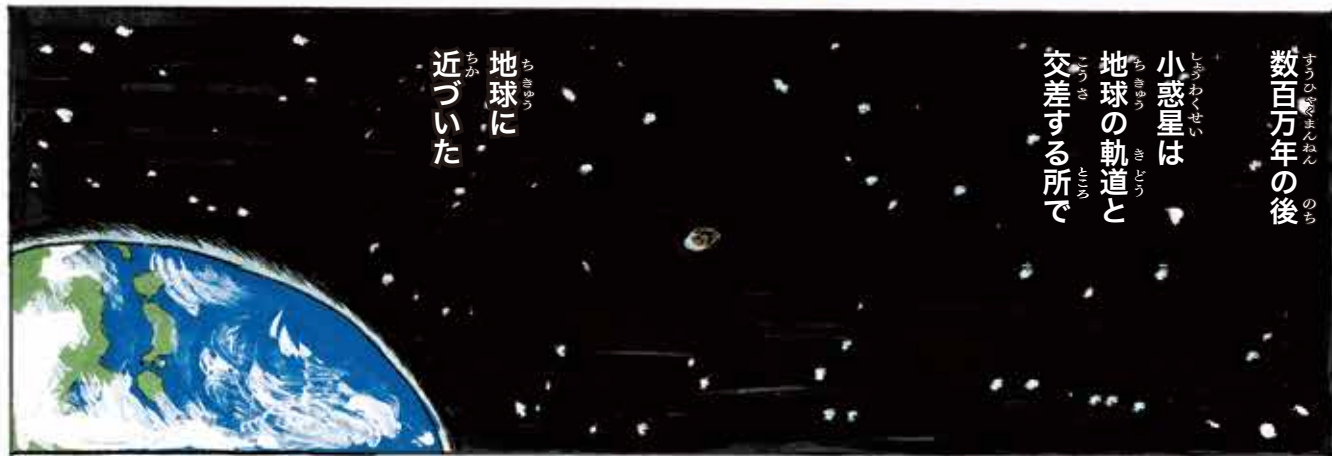
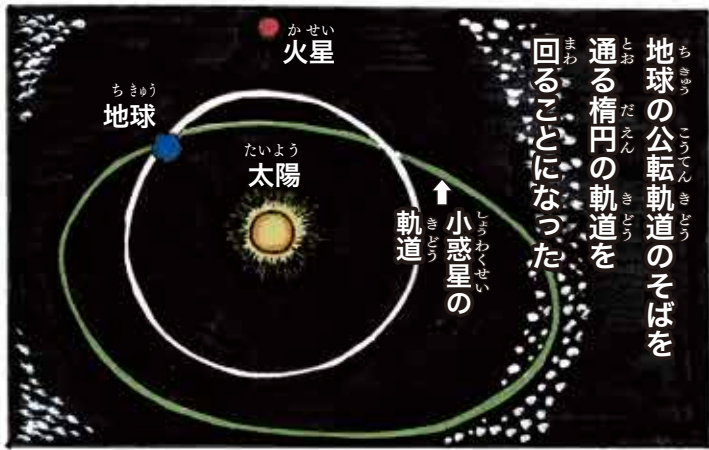


およそ45億年の後
小惑星帯の中で
小惑星同士が
衝突した



そうして
何回もの
合体と衝突・破壊の後

微惑星が集まった
小惑星帯が
作られた

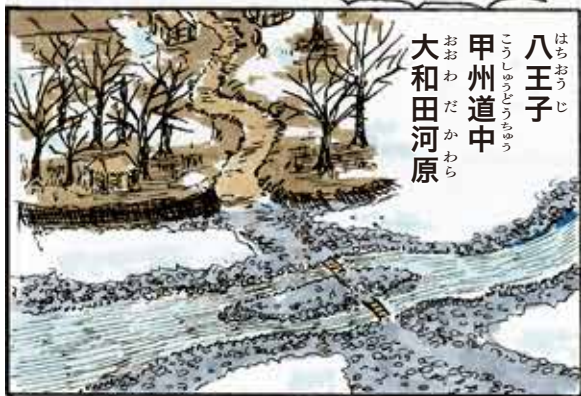




何だ
あれは？



鉄砲の
音か！？



八王子
甲州道中
大和田河原



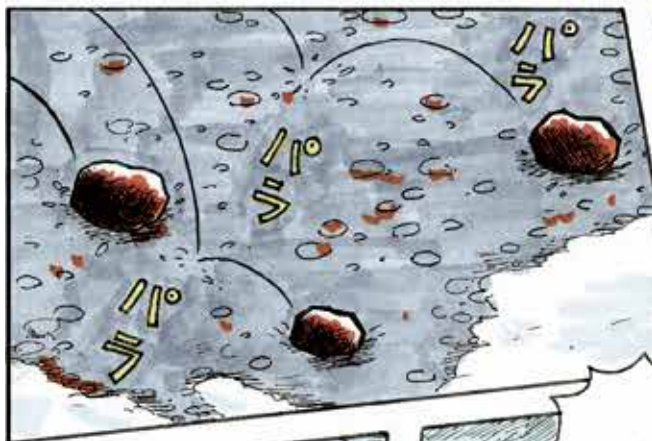
江戸から
西
甲州道中



火の玉だ！

西の方へ
行くぞ！

絵師
八島定岡

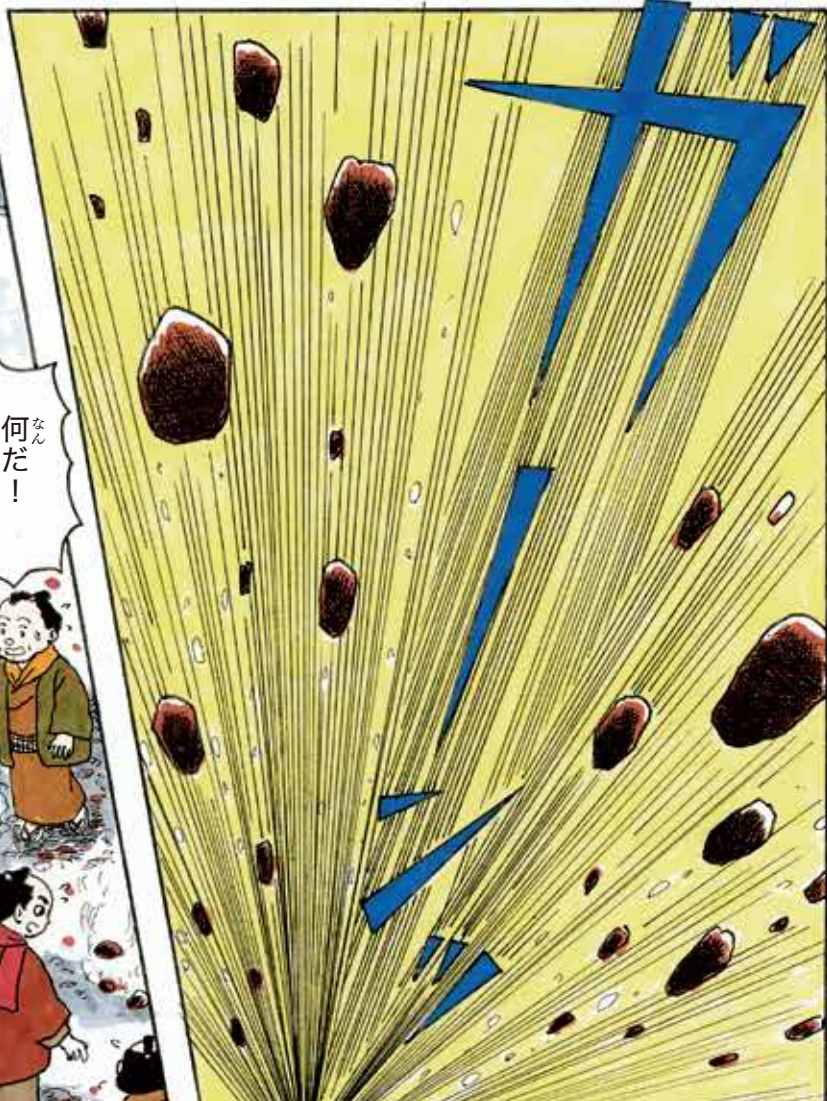


空から
降ってきた！？



何だ！
何だ！

焼けた石が
バラバラ
落ちている！







一方
八王子では



火の玉が
飛んで行った
方からですね

後に八島定岡は
この時の事を
著作である
『猿著聞集』に
書き記した



このようなら
石を拾ったら
名主の所に
集めておくよう
にするか！

ハッ

江戸
代官 小野田三郎右衛門



八王子十五宿の
ひとつである
子安宿の
名主
「八王子に
怪しい石が降って
きたのでお代官様に
お届けします」…と



一方
江戸の絵師の大家
谷文晁郎
曳尾庵！

八王子にいる
門弟の川口陝山が
おもしろい手紙を
送ってきたよ！



そして
石は代官から
勘定奉行へ
送り届け
られた



これが
その石!?



曳尾庵は
この手紙を
書き写し
随筆『我衣』に
記している

陝山は
こんなものを
送ってきた！

ほほー



友人の医師
加藤曳尾庵
これは

八王子に
石が降った時の
様子ではないか！

いったい
この石は
どうして降って
きたのかね

おう
聞いたかい？
八王子に降った
石の正体

聞いた！
聞いた！
聞いた！

富士の麓で
大筒の試し打ち
してたんだろ？

違う違う
伊豆の火薬庫が火事
でふっとんだんだよ

ちまたでは
いろいろな噂が
とびかって
いるようだね

あら？私
伊豆じゃなくて
上総（千葉）の方
だつて聞いたよ
爆発で
蔵の石が
ふっとんだん
だつてさ！

俺は伊豆の山で
ホラ貝が抜け
出たつて聞いたぜ！

それは
無いな…

由木村
（現在の
八王子市）
この村にも石が
落ちたんだな

名主様の所に
お届けに
上がるんだべ

わしら下々の
もんは…
見られねえ
んだな…

名主宅

こんなに
集まったか

まいったのう
お代官様からは
何も言つてこんし

とりあえず
全部の石の
重さを量つて
おいてくれ

へえ

そうして
いつしか
石のことは
忘れられていった…





江戸城



石は勘定奉行から
若年寄に届け
られていた

若年寄
堀田正敦



おもしろい！
天文方に
調べさせよ！

ハッ
早速に！



やれやれ

堀田様も

妙なものを
よこしたな

天文方
高橋景保



まずは
過去の事例を
洗い出すか

そして
火山のこと
も一緒にな

ハッ



高橋景保は
報告書を書いた

空から石が降る
というのではなく
火山から飛んで
きたのでしよう

どこの火山かは
そのうち明らかに
なるでしょう…



クラドニ

この20年ほど前：
1794年にドイツで
不思議な石について
研究していた
天文学者がいた

この石は
地球の石と
全く違う！

空から落ちて
きたとしか
考えられない

そんなこと
信じられるか！

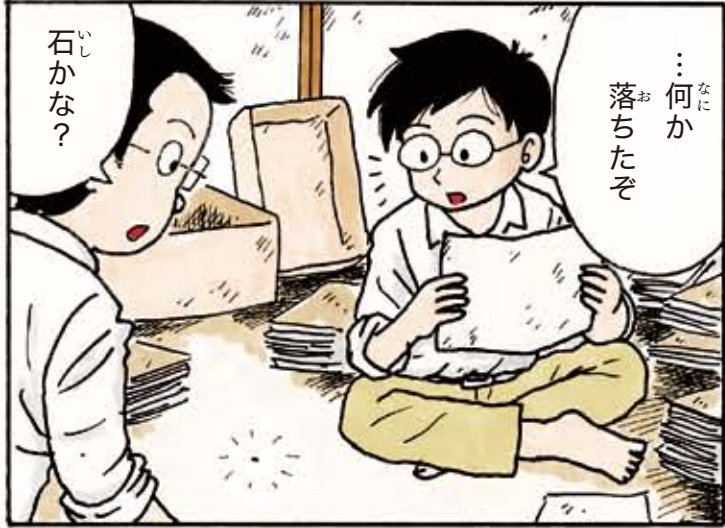
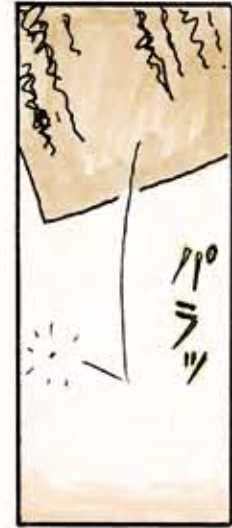
隕石が宇宙から
来ることは

まだ信じられていない
時代だったのである

学者たち

それから時代は
うつりゆき
昭和25年頃...

京都東方文化研究所は
土御門家の文書調査を
していた...



…何か
落ちたぞ

石かな？



文書には
八王子に落ちた隕石
って書いてあるね

東京天文台へ
送ってみるか



東京天文台

国立科学博物館の
村山先生に
分析してもらおう



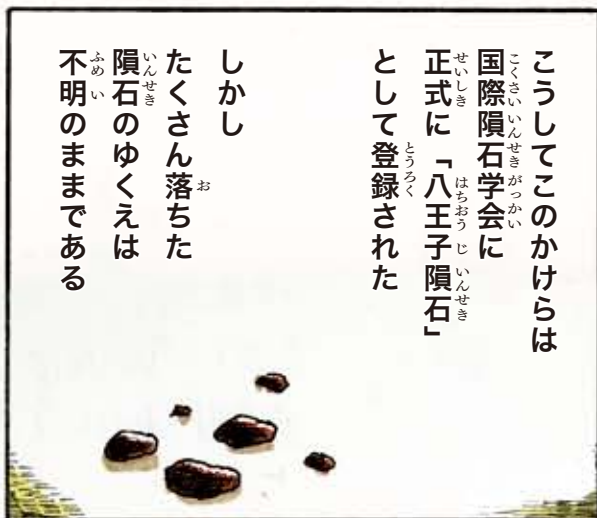
国立科学博物館
村山定男先生

分析結果を
見ればこのかからは
まちがいない隕石だ！



八王子市 上野町
金剛院

古文書に
よれば隕石が
落ちたのは
このあたり
ですか



こうしてこのかからは
国際隕石学会に
正式に「八王子隕石」
として登録された

しかし
たくさん落ちた
隕石のゆくえは
不明のままである



……

あとがき

八王子隕石は江戸時代の西暦1817年12月29日午後2時ころに八王子市、日野市、多摩市に隕石の雨となって落下しました。江戸の少し北の上空を飛び、多くの人々が目撃したり伝え聞いたりして、日記や随筆に記録を残しています。

この物語は日記や随筆の記載内容をもとにストーリーをまとめました。噂話もすべて記載されていることです。上野町の金剛院近くの麦畑へ落ちたものが一番大きかったようで、多くの古文書に書かれています。隕石の破片は八王子の名主から江戸の代官に届けられ、幕府天文方の報告も残されています。

ところがこれらの隕石はすべて失われ、昭和時代になって京都の土御門家文書の中から発見された0.1gの破片が唯一、八王子隕石として残されています。

最近の研究では八王子に落ちた種類の隕石は、約46億年前に太陽系ができた時に物質が集まったもので、元は火星の外側の小惑星帯を公転していたことがわかってきています。

現存している八王子隕石はわずか一片ですが、約46億年前にでき、長い年月太陽系の中をめぐり地球に落ちてきたもので、太陽系の歴史を研究する上でも貴重なものであることに思いを広げていただければ幸いです。

なお八王子隕石は現在、国立科学博物館に保管されており通常は非公開です。

作・森融

コニカミノルタサイエンスドーム
(八王子市子ども科学館)

絵・石垣知倫

製作・八王子市文化財課
八王子市子ども科学館
平成28年3月